

7 国立大学図書館の現状と課題

著者	江川 和子
内容記述	研修：令和元年度大学図書館職員長期研修 主催：筑波大学 期間：令和元年7月1日～7月12日 会場：筑波大学春日エリア情報メディアユニオン2階メディアホール等
発行年	2019-07
URL	http://hdl.handle.net/2241/00157197

国立大学図書館の現状と課題

東京大学附属図書館事務部長

江川 和子

1. 国立大学図書館の課題認識 ～学術基盤実態調査から
 - ・外国雑誌・電子ジャーナルの購入経費確保
 - ・学生の自学自習のための支援（ラーニング・コモンズ）
 - ・専門性を有する人材の確保、現職職員の育成

2. 大学図書館のミッション
 - ・国立大学図書館協会ビジョン 2020（2016年6月）
 - ・3つの重点領域： 知の共有、知の創出、新しい人材
 - ・国立大学図書館協会の活動
 - ・大学図書館と国立情報学研究所の連携・協力推進会議
 - ・大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）
 - ・これからの学術情報システム構築検討委員会
 - ・オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）

3. 大学と大学図書館
 - ・大学の機能 教育基本法
 - ・国立大学法人法 中期目標と中期計画
 - ・第3期中期目標・中期計画の具体例 ～図書館は書き込まれているか
 - ・各大学のビジョン、戦略、アクションプラン
 - ・国の施策動向
 - 文部科学省 中央教育審議会
 - 文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会（-2018年度）
 - 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）

4. 電子ジャーナル問題
 - ・価格上昇の推移、値上がり要因
 - ・圧迫される図書購入費
 - ・大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の活動
 - ・海外動向 OA出版、ハゲタカジャーナル、OA2020、Plan S
 - ・OA2020 購読モデルからOA出版モデルへの移行
 - ・国大協プレスリリース（2018年1月18日）

- ・日本学術会議シンポジウム、科学技術・学術審議会での今後の検討
- ・JUSTICEのOA2020ロードマップ公表（2019年3月5日）

5. 学生の自学自習のための支援

- ・「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」（2013年8月）
- ・アクティブ・ラーニング・スペース（ラーニング・コモンズ）の設置状況

※東京大学の事例から

- ・総合図書館の新図書館計画（進行中）
- ・別館ライブラリープラザをアクティブ・ラーニング空間としてオープン（2018年10月）

6. 新たな課題 ～オープンサイエンス

- ・内閣府「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」報告書（2015年3月）
- ・オープンアクセスからオープンサイエンスへ
- ・大学図書館とオープンサイエンス
 - ・国大図協プレスリリース（2019年3月12日）
 - ・国大図協総会・研究集会（2019年6月21日）
- ・国立情報学研究所によるオープンサイエンス研究データ基盤の整備

※東京大学の事例から

- ・機関リポジトリを研究データ公開基盤として活用（計画中）
- ・学術資産等アーカイブズ事業

7. 人材の育成・確保

- ・採用試験、キャリアパスの現状
- ・「図書館職員の人事政策課題について（提言）」（2012年3月）
- ・職員数、採用数の推移 次第に規模縮小
- ・大学設置基準の見直し
- ・新しい人材の育成には？ 図書館の「外部」を知る・経験する必要